

おじゃまします！

## 移動博物館・出前授業 ～その6～

県立郷土館では、学校や各種団体を対象に、移動博物館や出前授業を行っています。  
この連載では、移動博物館などの郷土館の活動について、実際の使用例などを交えてご紹介します。

\*\*\*\*\*

今回は、小学校6年社会科「長く続いた戦争と人々の暮らし」利用例を紹介します。

申し込みは鶴田町の小学校からで、青森県の空襲の様子や当時の暮らしを子どもたちに理解させるために、資料の展示と解説をしてほしいとのことでした。

授業を通して、子どもたちに戦争の悲惨さや平和の大切さを実感させ、戦争に対する自分の考えを持たせるため、次のような資料を準備しました。

- ・ビデオ教材「青森空襲」（戦火の様子や空襲後の青森市街が写っています。）
- ・戦争当時の小学校文集（小学生が「お国のために戦いたい」と書いています。）
- ・男の子の兵隊人形と女の子の愛国婦人会人形（遊びの道具も戦争一色です。）
- ・防空ずきんや防災バケツなど（常に空襲に備えていたことがわかります。）
- ・当時の新聞（終戦間際でもなぜか日本は常勝の記事ばかりです。）

授業では、まず「今、戦争がはじまったら日本はどうすればいいかな？」という質問をしました。

「攻撃するわけにもいかないし・・・ただ黙ってやられているわけにもいかないし・・・」とほとんどの子ども達が悩んでいる中、「やられたらやり返さなきゃ」と答えた子もいました。

そしてその後、前述の資料を紹介しながら、当時の暮らしや戦争がもたらした結果を解説し、授業の最後にもう一度、最初の質問をしました。

すると、「どうすればよいかはまだわからないけれど、“やってやり返してをくりかえしては絶対にいけない”ということだけはわかりました」「とんできたミサイルだけを打ち落として、自分たちからは攻撃しなければいい」など、戦争という異常な状況に陥ることだけは絶対に避けたいという気持ちが伝わる答えが返ってきました。



【兵隊人形】(右)

【愛国婦人会人形】(左)

私自身も戦争がどのようなものであるかは知りません。しかしこの授業によって、戦争が人々の生活にどんな影響を与え、そしてどれだけ悲惨な結果をもたらしたか、改めて考えさせられました。

\*\*\*\*\*

移動博物館・出前授業は、学習のねらいに応じて、展開や資料・体験内容を工夫して授業を行いますので、安心してご利用ください。

申込み・ご相談は、県立郷土館学芸課までお気軽に。

### ○ 問合せ・申込み先

青森県立郷土館 学芸課

TEL. 017-777-1585 FAX. 017-777-1588

ホームページアドレス <http://www.pref.aomori.lg.jp/kyodokan/>